

様式第 3

会 議 録

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 会 議 名                 | 令和元年度 第 2 回野田市消防委員会   |
| 議題及び議題毎の<br>公開又は非公開の別 | 1 消防の課題に対する優先順位について（公開）<br>2 救急件数の増加等に伴う組織や出動体制の在り<br>方について（諮問）（公開）<br>3 救急件数の増加等に伴う組織や出動体制の在り<br>方について（検討）公開）  |
| 日 時                   | 令和元年 1 2 月 1 8 日（水）<br>午前 9 時 3 0 分から午前 1 1 時 3 0 分まで   |
| 場 所                   | 市役所 2 階 中会議室 1 ・ 2  |
| 出席者氏名                 | 委 員 長 隈本邦彦<br>副委員長 関根和弘<br>委 員 逆井健一、本田尚吾、深井芳人、<br>秋山咲智子、横山栄子、石原和子、古谷道<br>雄、安田守、菅野透、市川浩保、斉藤和実<br>事 務 局 鈴木有（市長）、今村繁（副市長）、太田義則<br>（次長兼消防署長）、宮田明（参事兼総務課長）、<br>中島正美（予防課長）、園田誠一（警防課長）<br>内藤浩幸（総務課長補佐）、秋山健治（総務課<br>庶務係長）、田村雄一（総務課庶務係主任主事）<br>齋藤 弘由紀（警防課救急救助係長）、竹之内<br>義和（消防署員）、藤井 正則（消防署員）、<br>川田 晋司（消防署員） |
| 欠席委員氏名                | 染谷賢一・小張 力   |
| 傍 聴 者                 | 無し  |
| 議 事                   | 第 2 回野田市消防委員会の会議結果（概要）は、次の<br>とおりである。   |
| 消防本部総務課長補佐            | 令和元年 1 2 月 1 8 日午前 9 時 3 0 分、開会を宣言<br>し、会議の成立について報告した。会議の公開及び傍<br>聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明し   |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| <p>市長</p>               | <p>た。</p> <p>会議録作成のため録音機を使用することについて了解を得た。</p>  |
| <p>消防本部総務課長補佐</p>       | <p>市長の挨拶を求める。</p> <p>〈挨拶〉</p>  |
| <p>委員長<br/>委員長</p>      | <p>会議は、野田市消防委員会条例第6条第1項により、「委員長が招集し、会議の議長となる」となっていることから、委員長に議長を依頼する。</p> <p>〈挨拶〉</p>   |
| <p>委員長<br/>委員長</p>      | <p>議題1 消防の課題に対する優先順位について</p> <p>消防の課題に対する優先順位について、事務局に説明を求める。</p>  |
| <p>消防本部総務課長</p>         | <p>〈資料に基づき消防の課題に対する優先順位についての内容を説明〉</p>   |
| <p>委員長</p>              | <p>消防の課題に対する優先順位について、質疑及び意見を求める。</p>   |
| <p>・・・委員</p>            | <p>二つある。</p> <p>消防団定数860人に対し638人と少ないことでどういったことが問題になっているのか。</p> <p>取組について書かれていることが団員需要側の視点。供給側、地域の実情に沿った分析を入れて作らないと、解決に結び付かないと思う。</p> |
| <p>委員長<br/>消防本部総務課長</p> | <p>〈事務局に回答を求める〉</p> <p>今後の課題について、優先順位の1番目を消防団員の負担軽減として、操法大会の在り方等活動内容の見直しを消防組織検討会と進めている。</p>  |
| <p>委員長</p>              | <p>その後報酬の増額見直し等について検討していく予定</p>  |
| <p>委員長</p>              | <p>一つ目の質問である現員が少ないことでおきている具体的な問題については。</p>   |
| <p>消防本部総務課長補佐</p>       | <p>火災現場に参集していただく際、集まれる人が減り残火処理に時間を要してしまう。</p> <p>水防活動時はマンパワーが必要になる。</p> <p>人員が少ないと負担が増えたり、活動が行き届かなかったりする等が生じることが予想される。</p>           |
| <p>消防長</p>              | <p>課題の部分に付け加えさせていただきます。</p>  |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <p>消防長</p>              | <p>現在基本団員を確保する方針で進めているが、どの地域も団員の確保に苦労しているというのが現状。</p> <p>一度役員・役職を経験し退団した団員が、後継者がいないため、再入団して復帰している地域もある。</p> <p>2点目の質問について、ある管轄地域の場合、片方の自治会側はなり手が多く、もう一方の自治会は世帯数の割りになり手がほとんどいないという状況があり、地域格差ではないが後援に対する考え方の温度差が生まれていることを聞いている。</p>   |
| <p>委員長</p> <p>・・・委員</p> | <p>その点について事務局も課題として捉えている。</p> <p>新住民の多い地域はなり手が少ないということか。<br/>〈少ないとの声多数〉</p> <p>昔は農家が多く、長男が後を継ぎ、兄弟は外に出るという風潮であったが、現在はそうでない。自分が東部小学校にいた頃は107人いた生徒が今年は26人と4分の1以下になっている。</p> <p>団活動の適齢期、20代から40代の人口が自分の地域ではもういない。</p> <p>防犯活動に出てくるのは60代。</p> <p>消防団の地域における役割について、見直す時期に来ていると思う。</p> <p>様々な問題ではなく、具体的な問題を一つ一つどう解決していくかを考えなければいけないと思う</p> |
| <p>委員長</p>              | <p>優先順位の確保の取組自体は良い。ただし、何のために確保するのかを明確にせよということによろしいか。</p> <p>〈異議無し〉</p> <p>では優先順位については説明のとおりで良いが、何のために消防団員を確保するのかを市民に分かりやすく説明してください。</p> <p>今年実際におきた41件の火災に対し、ピーク時ではどれくらい消防団員が必要で、人が少ないことによりどういった不都合が起きたか等を明確に示した方がなぜ消防団員が必要かという説明になると思う。</p> <p>恐らく消防団活動で一番大事なことは、日常的な防災意識の向上や、いざという時の連絡や救助に関する</p>                                 |

|             |  |
|-------------|--|
| <p>委員長</p>  | <p>下地づくりであると思う。そういったことなら世の中へアピールできる。</p> <p>大規模災害のとき、各地域で消防団が実働部隊として活動した、過去、最近の事例を紹介し、「こういう活動をしている人たちが地域にいないことは心配じゃありませんか。」とむしろ市が積極的にアピールして募集をする。</p> <p>報酬額や、あなたの地域は誰もなろうとしていないからやってくださいという理由では世の中は動きませんので、地域を守る、自分たちの命を守るためには消防団が欠かせないということをきちんとアピールしていくことが委員からの質問に対する答えになるのでは。</p> <p>実態を調査し、地域の偏りが現実にあるのであれば地域人口に対する消防団員の比率を示してアピールする、だから団員を出せではなく、偏りがあるという事実として提示した方が様々な問題がある、とするよりも説得力が出るのではないか。</p> <p>〈異議無し〉</p> <p>では優先順位についてはこのとおりで良いが、その理由についてより明確なデータや課題をアピールするということにさせていただくということによろしいか。</p> |
| <p>副委員長</p> | <p>消防団における活動について。</p> <p>平時における活動は委員長が言ったとおりであるが、有事に際して一番大事なものは水防活動である。</p> <p>先の台風でも堤防の決壊が危惧され、消防団員が地域を回って避難勧告、誘導を行っていた。</p> <p>長野では決壊が起きた地域もあり、そういった活動も示してもらいたい。</p> <p>また機能別消防団や学生消防団について、野田市の意向が示されていないがこの点についてどうなっているのか。</p> <p>学生消防団は国によって示され国の予算で動いている大学生の消防団。東京と京都で主に活動。千葉県では銚子市が導入している。</p>   |

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>消防総務課長</p>   | <p>自分の所属する京都の大学では30名ほど在籍しており、2年間を活動にあてると京都の消防団から証明書が出て就職に有利な材料となるもの。これらについてはどうなのか。</p>  |
| <p>・・・委員</p>    | <p>現在学生の消防団員は一人しか加入していない状態。学校ごとに所属という状態はない。</p> <p>学校ごとに活動する機能別消防団については、平成30年1月に国から出た「消防団員の確保等に向けた重点取組事項」に記載があるので、優先順位2番目に「加入促進の新たな取組」を目標として考えていこうとしている。</p>  |
| <p>委員長</p>      | <p>先ほど質問に出たどういったときに消防団の活動が必要となるかという事について。</p> <p>2011年3月11日、北方面隊の隊長をしていた際、災害本部からの依頼で被害状況の調査、防火水槽の点検等々を行った。</p> <p>マンパワーが必要で、携帯も通じない中、車で各地を見回ったが、人員減が続くとままなくなる。</p>  |
| <p>消防総務課長補佐</p> | <p>実際の大災害時、重篤な被災地では停電が起これるのでテレビによる情報伝達が難しい。</p> <p>またテレビは広域の情報になるため、被災地にピンポイントな情報を伝えるのは難しい。</p> <p>そのため結局人海戦術となり広報車でどれだけ回れるかということになる。</p> <p>そういうときに消防団員というのはいざという時に頼りになる存在だということをアピールして募っていただきたい。</p> <p>機能別分団についても検討していってもらおう。</p> <p>優先順位については以上でよろしいか。</p> <p>〈異議無し〉</p> <p>議題2 救急件数の増加等に伴う組織や出動体制の在り方について（諮問）</p> <p>一度事務局に戻します。</p> <p>〈市長から委員長へ諮問書が手渡される〉</p> <p>市長につきましては公務により退席とさせていただきます。</p> |

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <p>委員長</p>                           | <p>〈市長退席〉<br/>議題3 救急件数の増加等に伴う組織や出動体制の在り方について（諮問）<br/>市長から諮問書を頂いたので皆さんに写しを配ります。</p>   |
| <p>事務局<br/>委員長<br/>消防総務課長</p>        | <p>〈写し配布〉<br/>〈事務局に説明を求める〉<br/>〈資料に基づき救急件数の増加等に伴う組織や出動体制の在り方について内容及び対応案を説明〉</p>  |
| <p>委員長<br/>副委員長<br/>消防総務課長補佐</p>     | <p>〈対応案について質疑及び意見を求める。〉<br/>3交代6署所3係、18隊の救急隊になるが、現在全ての隊に救急救命士は置かれているのか。<br/>北出張所平成31年4月当初は全係配置していたが職員の退職があり現在北出張所1隊のみ配置できていない状態である。</p>  |
| <p>副委員長<br/><br/>総務課長補佐<br/>副委員長</p> | <p>もう一つ、論文で示されているが救急救命士は1名よりも2名で対応したほうが救命率や病院への重傷者収容等の時間が早く効果が高いとの事があり、18隊中何隊が2名体制なのか。<br/>少し時間を頂いてよろしいか<br/>分かりました。他市ではおおむねそうなっている、全隊2名乗車という体制が野田市は取れていない。<br/>救命士36名だと休み無しで対応することになるため、46名ぐらいいないと常時2名の充足は満たされない。現在34名で年間2名ずつの養成とあるが。</p>                   |
| <p>委員長<br/><br/>副委員長</p>             | <p>救急救命士を複数配置することで1回当たりの出動時間を縮めることができるという提案でよろしいか。<br/>そのとおり。対応策の比較で実施期間が記載されているが、例えば九州の佐世保市では救急救命士の募集を救急救命士暦5年以上で、年齢40歳までとして即戦力として配備するための募集をかけている。<br/>佐世保市寒河江では救命士は35歳まで採用。<br/>野田市の採用条件に21歳までという上限を設けているが、県内でも28歳、30歳までの採用枠を設けているところもあり、これを見直すことで実施期間</p> |

|            |   |
|------------|---|
| 副委員長       | <p>を短縮することができると思うがその点については考えているのか。</p> <p>管内に住む他市町村勤務者の転職を受け入れられれば、育成費用や期間を大分短縮できると思う。</p>  |
| 副市長        | <p>7年という期間については来年度以降定数条例の改定を予定しており、財政状況が厳しい中で人権費をどのように抑制していくかということが大きな課題。</p>   |
| 副市長        | <p>消防の人員増の必要性は理解していても一回で増員を済ますことは難しいと感じている。</p> <p>その中でどのように体制を整えるかという意味も含めての7年であるので、中途採用等活用して短縮を図るということはなかなかできない面があることを理解いただきたい。</p> <p>年齢上限については消防側で検討することである。</p> <p>市長部局については現在社会経験者等間口を広げている。消防については現場活動に携われる時間という観点から若い方がいいという考え方があり、これまではそのように進めてきたと聞いている。</p> <p>野田市の人口規模は半端なところもあり、今後の年齢枠については消防で見直しを含めた検討をお願いしたい。</p> |
| 委員長        | <p>7年というのは人件費の側面から毎年3人ずつ増やしていく形で進めるのであれば可能だろうが、1年で18名は無理ということではよろしいか。</p>   |
| 副市長        | <p>そうであるがただ人件費ということではなく、新規採用で18名増やすと退職時期が重なってしまう。</p> <p>年齢要件の緩和で解消しても今度は現場活動時期の減少が起きる等の要素も含め、消防側で検討していただきたい。</p>   |
| 委員長        | <p>7年ということは確定事項ではなく、年3人程度であれば実現できるかもしれないということ、同年代18人の一斉採用は厳しいということ踏まえ、7年ぐらいの計画ということで受け止めればよろしいか</p>   |
| 副市長<br>委員長 | <p>ただ、これ以上短くするのは財政的に難しい。</p> <p>その中で中途採用による体制を検討する考えはあるのか。</p>  |

|        |   |
|--------|---|
| 副市長    | 採用条件については消防で検討してもらう事になる。  |
| 副委員長   | 仮に40歳採用をして、その人が何年現場活動ができるのかという点で消防が受け入れられるか。  |
| 副市長    | 教育期間と教育費用は掛からない、即戦力の採用という提案であったが。   |
| 副市長    | ある程度の年齢になると現場活動が体力的に厳しくなり本部での事務業務に当たることになる。   |
| 委員長    | 採用者が現場活動をする期間が短くなってしまう。個人差はあると思うがそれらを踏まえ消防がどのように体制を作っていくのか検討してもらいたい。  |
| 副市長    | 欠けた人員分の採用の手間が増えるという事ことでよろしいか。   |
| 副委員長   | 現場活動に携わる人数は一定数が常に必要なため、高年齢で採用すると活動期間の短さから内部事務者の比率が増えてしまう。現在は定年後の再任用制度による職員もいるため、高年齢者の比率が増えるとその点についても考えていかなければならなくなる。                      |
| 委員長    | 先ほどあった中途半端ということについて。全国の自治体の消防本部の人員数は100人から300人規模の分布が一番多く、野田市消防の規模は全国的には標準規模であると思われます。   |
| 副市長    | 人口15万人に消防車7台というのは3万人に1台という全国的な基準からみればちょっと多いという考え方か。   |
| ・・・委員  | 中途半端というのは、もう少し人口が多く財政規模が大きければという趣旨で言ったもので、人口に対し地域が広いという特性も踏まえて中途半端、20万人ほどいればまた違った展開もできるということ  |
| 消防総務課長 | 採用の件で、これまで野田市消防の採用募集で救命士を募集したことはあるのか。<br>大学や各種専門学校で資格をとった上で救命士枠での採用という話もあるので。<br>救命士枠での募集をしたことはないが、個人で救命士資格を取得した上で消防士として採用され入ってきた職員は2名いる。 |

|               |   |
|---------------|---|
| <p>・・・委員</p>  | <p>資格だけではその後の研修等あるので即戦力にはならないでしょうが、最近は救命士枠での募集も増えているので、内部養成では（入校等）時間も掛かるので最初から資格有りの人を救命士枠で募集をかけるのもいいのではないかと。</p>  |
| <p>副市長</p>    | <p>自分が総務部長であったときに救命士枠の募集について確認した際には、当時の消防から枠を固定してしまうのではなくまずは消防士としての教科をしっかりやらせたいという回答があり、あえて救急救命士枠を設けることはしなかった。</p>  |
| <p>副市長</p>    | <p>当時は人員削減を図る時期であったため専門での採用は難しかったところもあると思う。</p> <p>ただ、今の野田市では先日の災害や消防団員の減少問題もあることから、常備消防の強化を考えなければいけないという認識になっており、救急救命士枠での採用についても検討しなければいけない課題だと思う。</p> <p>救命士として何人必要なのかと併せて消防に検討してもらえれば。</p> |
| <p>委員長</p>    | <p>ほかに何かあるか。</p>  |
| <p>・・・委員</p>  | <p>資料の2ページの説明で、関宿分署と関宿北出張所の救急出動件数を合計するとほかの署と同等になる、また資料6ページに、救急出動件数に差が生じ、救急隊への負担が隔たる場合があることに対し、弾力的な人員配置や救急ニーズに応じた部隊配置が望ましい。とあるが、関宿分署と北出張所を統合するというような意見はなかったのか。</p>                             |
| <p>委員長</p>    | <p>関宿北出張所は関宿地域が細長い等の特性から関宿分署を分けた経緯で設置されたものではないか。</p>  |
| <p>・・・委員</p>  | <p>言いたかったのは中間点に一つの署として配置すればそこで20%負担の1拠点になったのではないかとということ。</p>  |
| <p>委員長</p>    | <p>今現在の適正な配置に向けた運用の見直し等は可能かという趣旨の質問であるがどうか。</p>   |
| <p>消防総務課長</p> | <p>まず関宿北出張所については、当時5分以内の現場到着を実現することを目標に建造されたため、二箇所</p>  |

|   |  |
|---|--|
| <p>・・・委員<br/>委員長<br/>消防総務課長<br/>委員長<br/>・・・委員<br/>消防総務課長補佐<br/>副委員長</p> | <p>に分かれたものである。<br/>中間点に設置することで現着時間が遅れてしまうため、現在の形のまま運用を続けた方がいい。分かりました。<br/>例えば二つ拠点があっても統合運用、人間は一緒に動かすというのは不可能ですか。<br/>休暇等の兼ね合いで人員の行き来運用はあります。人を融通しあうということはやっている。<br/>別の質問です。7ページにある救急車の適性利用について、救急車の有料化について検討したらどうか。<br/>現在全国的に見ても有料化という話は聞いたことがなく、民間救急隊はあるが公の救急車については現在そのような話は出ていない。<br/>救急業務のあり方に関する検討会というのがある。救急業務のあり方に関する検討会というのがある。国の方では有料化については何回も検討されている。<br/>実際救急出場すると1件当たり人件費無しで8万円から10万円の費用が掛かる。<br/>安いところだと4万円程度のところもありボリュームゾーンは4万から8万。<br/>何回か答申はされていて、現在のところあらゆる手段を使い無料のまま適正利用の推進をやってみて、ダメだったら有料化という将来構想は出ている。<br/>現在の所有料化のめどは立っていない。<br/>1件当たりの負担を全額にすると、恐らく殆ど使われないと思うが、1,000円や5,000円程度にすると逆に利用が増えてしまうのではないかな等あるため有料化に至っていない。</p> |
| <p>・・・委員<br/>副委員長</p>   | <p>病院側が救急車でお願いすると早く診てもらえるという話を耳にするが、それは本当なのか。<br/>現在トリアージ方式を取り入れており、救急でいつでも状態によっては待たされることになる。<br/>最初の看護師の確認は早く来るだろうが、その後については状態が重い方優先になる。<br/>救急車利用有料化について補足します。<br/>徴収方法については検討されており、手数料扱いで</p>   |

|                        |   |
|------------------------|---|
| <p>・ ・ 委員<br/>副委員長</p> | <p>あれば可能という答申は30年ほど前にされている。<br/>ありがとうございました。海外では有料化されているという話もあるが。<br/>アメリカはほぼ有料化されており、1件当たり5万円から10万円、クレジットカードや後払いや水道代に加算される等で徴収される。<br/>ただし4割の人が払ってくれないことが問題になっていると現地の方から聞いたことはある。</p>  |
| <p>・ ・ 委員<br/>委員長</p>  | <p>救急車利用を有料化すると、市民サービスの面で副市長が求める20万人という人口増加へ向けた足かせになるのではないかと<br/>私が知る限り大病院にいきなりいくと保険外併用療養費を取られるが、救急搬送の場合はとられないという逆の動機付けが行われているのが現実で、タクシーで行くとお金を取られるが、救急車だと取られないという、医療側の問題もある。<br/>もう一つの問題として病院間搬送、野田市のデータでは転院搬送が490件あるが、例えばある病院で自分の病院では見きれないほど重症になったので、ほかの病院に連れて行くという使い方なら正しいが、逆に元の病院に帰ってくるときや、それほど重症でもない検査のためだけの移動であっても、救急搬送の依頼を出している医療機関もあつたりする。<br/>消防・救急と医療機関はふだん協力関係にあるので消防側から声を上げることは難しいであろうが、大事な問題だ。<br/>個人の開業医等、全ての医療機関が病院間搬送車を持つのは難しいし、業者に依頼して搬送すると費用が発生することから患者側も使いたがらず、それだったら救急にお願いしようとなってしまう。<br/>仮にこれが正しく利用されれば490件負担が減るかもしれない、一般市民に対し利用の教育を徹底することは難しいが、消防の方が声を上げられないことを、医療機関の代表もいる我々から、答申に付け加えて上げさせていただくということはあると思う。<br/>タクシー代わりに使わないでほしいと市民に言っ</p> |

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>・・・委員</p>    | <p>ておきながら、医療機関はタクシー代わりにしているという状態は問題であると思う。</p>  |
| <p>・・・委員</p>    | <p>委員長の話にあった一般市民に対する教育は難しいという点について、7ページの7番の適正利用について、市からお知らせのチラシを出して、電話制度やアプリの周知をした方がいい。</p>             |
| <p>委員長</p>      | <p>ホームページは見る人が限られているので、自治会をうまく使って消防としてチラシを配布し、適正利用を意識付けていければいいと思う。</p>                                  |
| <p>消防総務課長補佐</p> | <p>是非そういった広報活動をお願いできれば。<br/>そのようにいたします。</p>   |
| <p>副委員長</p>     | <p>先ほど副委員長から御質問のあった救命士の配置状況ですが、関宿北出張所は2係に1名ずつですが、それ以外の5署については各係2名ずつ配置されております。</p>                       |
| <p>副委員長</p>     | <p>分かりました。<br/>3ページに書いてある精神疾患や病院受入困難症例による現場滞在時間の延長について。</p>   |
| <p>副委員長</p>     | <p>精神疾患搬送の場合、受入先を探しながらの搬送となるので非常に時間が掛かる。自分が現職時、最長で7時間掛かった。</p>  |
| <p>副委員長</p>     | <p>関西では大阪府、大阪市、堺市が民間救急に精神科救急を委託しており、そちらに電話してもらう形で消防の救急車は出場しない。</p>                                      |
| <p>副委員長</p>     | <p>京都市ではタクシー会社に依頼しワンボックスカーで搬送をしている。</p>   |
| <p>副委員長</p>     | <p>精神疾患搬送がどれくらいあるのかMC（東葛南部救急業務メディカルコントロール協議会）で調査し、千葉県で委託する形に移行するように5年、10年かけて進めてもらいたいと思っている。</p>         |
| <p>委員長</p>      | <p>精神疾患は1症例に対し長時間拘束されてしまうので改善していくべきだと思う。</p>  |
| <p>副市長</p>      | <p>その点についてもご検討いただきます。<br/>救急車の有料化について現時点の市の考えを。<br/>受益者負担の考え方について等、経過をにらんでいくところであるが、救急の初動については、市が担う</p> |

|       |  |
|-------|--|
| 副市長   | <p>べき基幹的な事務であるためこれを有料化するということは今のところ考えていない。</p> <p>ゴミ処理について、市の責務という考えでゴミ袋を一定枚数無料で配布している。自治体によっては全て有料である。</p> <p>救急についても、市の責務という考え方から有料化を考えてはいない。</p> <p>もう一点、先ほど医療機関宛てに答申を出すという話が出たが、本日は医療機関代表の小張委員が欠席であるので、小張委員の意見を聞いてからでないとは決定できないと思う。</p> <p>消防から確認を取った上で結果をお知らせするので、その結果を踏まえて次回決めていただきたい。</p> |
| 委員長   | <p>ではそのようにお願いします。</p> <p>市民に呼び掛けるのと同じように医療機関についても呼び掛けるといった内容になると思うが、その点について小張委員にお話を伺ってからにしましょう。</p>  |
| ・・・委員 | <p>ほかに何かあるか。</p> <p>問題の解決策にもある、職員の人員増が一番の課題である。</p> <p>設備増への投資は一回で終わるが、人員は将来にわたって活躍するため一番費用が掛かる。</p> <p>近隣市と人口や消防人員は同程度でも、他市は面積が狭く、少ない署で管理できるため、1署当たりの人員が多くなり対応が手厚くなっている。</p> <p>消防施設の再配置や組織体制含めて総合的に見直しを考えることを継続していくべき。</p>   |
| 委員長   | <p>ありがとうございました。</p> <p>今回、野田消防の現状について消防側で検討した中で、案3が理想ではあるが、人員削減が叫ばれる中、妥協案ではあるが、3人の採用で日勤救急隊を作ること、当面の対応が可能になる事から案2を推してみたいとの意向のようである。</p> <p>案2を採用した上で下記についても進めることとしてよろしいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な対応策3の実現へ向けた検討。</li> </ul>   |

|               |  |
|---------------|--|
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の適正利用の呼びかけや救急救命士の充足率を上げて一回当たりの搬送時間を減らす対策も同時に進める。</li> <li>・長時間案件である精神疾患搬送等について外部委託等将来的な対応について検討する。</li> </ul> |
| 委員長           | <p>〈異議無し〉</p> <p>対応案2で進めてもらうことに決まったが、委員会としては諸処委員から意見が出たので、それを受けた総合的な対策もやっていただきます。</p> <p>事務局に戻します。</p>   |
| 消防総務課長<br>委員長 | <p>〈次回の日程をお知らせする。〉</p> <p>学生消防団については理科大の大学本部と話を進める等情報を集めておいてください</p>   |
| 副委員長<br>委員長   | <p>元東京消防庁の教諭もいるから話しやすいと思う。</p> <p>学生に対しては就職に有利という点が大きなアドバンテージになると思うので検討してみてください。</p> <p>〈午前11時05分、閉会を宣言した〉</p> <p>以上</p>                                 |